

予算審査特別委員会

第58号議案・令和2年度白石市一般会計補正予算(第3号)から第63号議案・令和2年度白石市下水道事業会計補正予算(第1号)までの計6議案について、定例会2日目(6月10日)の本会議において質疑が行われた後、議長を除く全議員で構成する予算審査特別委員会が設置され、審査が付託されました。

同委員会(委員長・大野栄光、副委員長・森建人)は、6月11日に審査を行い、すべての議案について、採決の結果、全会一致で原案のとおり可決しました。

審査の中で議論された主な点は次のとおりです。

◎令和2年度白石市一般会計補正予算(第3号)

総務費

〔質疑〕白石市地域おこし協力隊起業支援補助金として100万円が計上されているが、この内容を伺う。

〔答弁〕今年度で任期終了となる地域おこし協力隊員が、市内で起業する準備をしていることから、それに要する経費について助成するものである。

現在の予定では、自宅の一部を陶器ギャラリーとして整備し、陶器の製造販売に取り組みるとともに、イベントなどへの出店、陶芸教室の開催、地域の他業種との連携や地域資源を活用した商品開発などに取り組み計画となっている。

また、単なる商品販売だけではなく、地域おこし協力隊としてのこれまでの活動や人脈を生かし、地域活性化の活動にも取り組んでいく計画である。

〔質疑〕ふるさと納税業務委託料674万3千円が計上されている

が、この内容を伺う。

〔答弁〕ふるさと納税寄附制度の利用者の多くは、確定申告もしくは寄附金税額控除に係る申告特例申請(ワンストップ特例申請)を行なっているが、令和元年度はワンストップ特例申請が全体の約3割、1万5千件に達した。

この申請に対し、1月末までに各住所地へ納税状況を報告する必要があったことから、令和元年度はこれらの事務処理を全庁的な対応で行なったが、今後は、業務の効率化を図り、各種事業を展開することで、さらなる受納額の増加を図っていくため、ワンストップ特例申請の事務委託に係る経費を計上したものである。

〔質疑〕本市のふるさと納税については寄附額が増えていると聞くが、現在どのぐらいの額なのか伺う。

〔答弁〕令和2年4月については2千189件、2千250万1千円の寄附金収入となっている。昨年の4月については552件、597万9千円であったことから、昨年度よりも増額となっている。

商工費

〔質疑〕ZAO関係市町連携インバウンドプロモーション事業委託料については、本市と山形市、上山市、蔵王町、七ヶ宿町及び川崎町の3市3町の連携により、プロモーション強化事業、受入れ環境整備事業、滞在コンテンツ充実強化事業を計画していくとのことだが、今年度の事業の方向性を伺う。

〔答弁〕本事業は、国から新型コロナウイルス感染症の影響が懸念されるものについては中止、または東北観光復興対策交付金の交付決定額の範囲内であれば、内容の変更が可能であることが示された。

このことにより、例えばプロモーション事業として海外に行くことが難しい場合は、オンラインの商談会に変える、また、受入れ環境整備事業として看板の整備などに予算を充てるなどの変更が可能となったことから、今後は新型コロナウイルス

感染症拡大の動向を見ながら内容を検討していく。

土木費

〔質疑〕中河原白石沖線街路事業の物件移転補償金として3億2千768万2千円が計上されているが、移転補償の進捗状況について伺う。

〔答弁〕5月から買収を開始したため、5月末での契約の進捗状況は全体の買収事業の10.5%となっているが、地権者との交渉は大体済んでいることから、これから順次契約を進め、買収が済んだところから工事に着手していく。

〔質疑〕中河原白石沖線街路事業の規模について伺う。

〔答弁〕本事業については、延長が458メートル、全体の事業費は12億6千442万6千円という事業規模となっており、令和5年度の完成を目指していることである。